

南アフリカ為替週報

2022年9月8日 | みずほ銀行欧州資金部

<過去1週間の動き> (9月1日～9月7日)

USD/ZAR: 17.0600～17.4500
ZAR/JPY: 8.06～8.34 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、対ドルで、5日の反発を例外に、一方的な下落。7日までに2年ぶりの安値を17.4500まで更新した。ただし、並行した円全面急落を受け、対円では、5日以降、明確に水準を切り上げた。5日のランド高は対ユーロでも進んでおり、全面高と言える値動き。何らかのランド押し上げ要因の存在が考えられたが、その要因に、南ア国債、プラチナ(注1)の反発を挙げることができたはず。ただ、いずれも2日の時点で明確に上昇に転じており、ランド反発だけが何故週明け5日まで遅れたのか、説明はつかなかった。南ア燃料省が、5日、国内燃料価格の大幅引き下げ(注2)を発表したのは、南ア経済の先行きにとっては好感できる要因だっただろうが、南ア物価下振れ=南ア準備銀への利上げ圧力後退要因がランドを押し上げたと考えするには、些か無理が感じられた(注3)。6日発表された南ア第2四半期GDPの下振れは、前期分の下修正(注4)と併せ、明確に失望を買う数字だった。前後してランドは、対円では上昇したものの、対ドル、対ユーロでは明確に下押ししており、同GDPがランド売りを誘ったと考えるのは、筋の通った見立てのように思われた。1日の時点で、1998年8月来24年ぶりに140円台(対ドル)でまで下落した円は、6日、7日の2営業日で、一気に安値を144.99まで広げたが、従来から燦る円安要因(注5)以外に、特段の新規要因は見当たらなかった。ただ、24年ぶりの円安水準における続落・急落に、限られた日当局者(鈴木財務相、松野官房長官など)が、従来通りの円安けん制発言を繰り返したただけだった事実は、敢えて、局面の円安に弾みをつけた要因と位置付けられなくもなかったのではないか。

<過去1週間に発表された主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
9/1	10:36	自動車販売統計(前年比)	8月	+14.2%	+10.1%	+30.9%
9/6	9:30	GDP(前年比)	Q2	+0.2%	+0.6%	+2.7%
9/7	6:00	総外貨準備高(USD)	8月	59.76bn	59.13bn	59.51bn

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

<向こう1週間の見通し> (9月8日～9月14日)

USD/ZAR: 17.150～17.500
ZAR/JPY: 8.20～8.40

向こう1週間の南ア・ランド相場は、対ドルで、安値圏における膠着を中心に予想。ただし、中期的なランド反発余地は広がってきていると考える。上述の通り、足元反発の兆しは見えるものの、コロナ禍本格化(2020年春)以降の推移を振り返ると、南ア国債も、プラチナも、引き続き安値圏における低迷を脱していない。その背景には、ゼロコロナ政策や対米関係の悪化などを要因とした中国景気(資源需要)低迷観測や主要中銀(米連銀や欧州中銀)による積極的な金融引き締めが世界経済を窒息させるリスクに対する警戒感など、構造的と言える要因がある。8日の欧州中銀理事会に向け、市場の予想は政策金利全般の、+75b.p.利上げと+50b.p.利上げの間で割れており、その結果が待たれるが、ランド相場の先行きには21日の米連銀公開市場委員会の方がより大きな影響を持つと見込まれる。足元(世界的な)株価軟調や景気先行きに対する悲観の根底に、それぞれ+75b.p.利上げに対する警戒感があるのだとしたら、そうした大幅利上げは、既に相応に織り込み済と見做すのが妥当ではなかろうか。一方で、中期的な楽観の根拠には、リンポポ州、北西州の与党アフリカ民族会議(ANC)支部が、12月の党首選に向け、それぞれ、ラマポーザ大統領の続投支持を表明したこと、同大統領所有の農場を舞台とした汚職疑惑の捜査が、年明け以降まで終結しない=12月の党首選前の起訴はないとの観測が現地から聞こえてきた点などを挙げることができる。同大統領の政策基盤強化=構造改革加速といった目線(期待感)で、前向きに評価できる展開と考えられた。

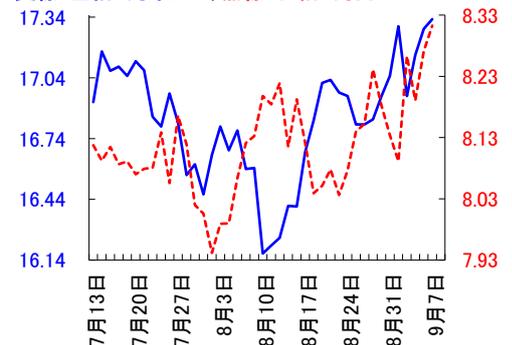
<向こう1週間に発表予定の主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
9/8	9:00	経常収支(ZAR)	Q2		+85bn	+143bn
	11:00	製造業生産(前年比)	7月		+4.1%	-3.5%
9/13	9:30	鉱業生産(前年比)	7月			-8.0%
9/14	11:00	小売売上高(前年比)	7月			-2.5%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

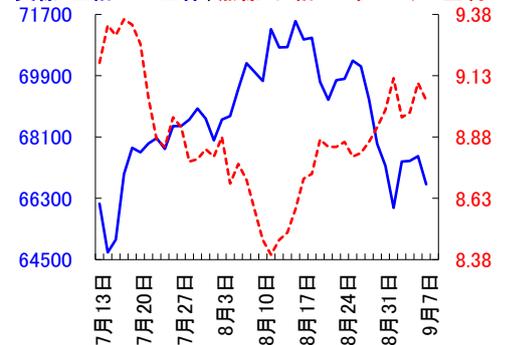
為替相場の推移(資料:ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移(資料:ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE全株、点線/右軸: 10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レポ金利)		5.50%
長期金利(10年スワップ)	9月7日	9.030%
株価指数(JSE全株)	9月7日	66715.83
成長率(GDP/前年比)	Q2	+0.2%
経常収支(ZAR)	Q1	+143bn
失業率	Q2	33.9%
消費者物価(前年比)	7月	+7.8%
小売売上高(前年比)	6月	-2.5%
製造業生産(前年比)	6月	-3.5%
鉱業生産(前年比)	6月	-8.0%
貿易収支(ZAR)	7月	+24.8bn
金価格(ロンドン17:00)	9月7日	1710.54

(注1) 南アの代表的な輸出産品

(注2) ガソリン価格は平均8.2%下落

(注3) 米連銀や欧州中銀の積極的な利上げ姿勢がドル高やユーロ高を招く環境で、

(注4) 前年比+3.0%→+2.7%

(注5) 内外金利差拡大、日貿易収支悪化など

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。